平成21年10月30日

各　　位

会 社 名　　東 海 染 工 株 式 会 社
代表者名　　取締役社長 八代 芳明
コード番号 3577　東証・名証第１部
問合せ先　　取締役管理部長 津坂 明男
（TEL 052-581-8141）

平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年5月12日に公表しました平成22年3月期第2四半期累計期間（平成21年4月1日～平成21年9月30日）の業績予想（連結・個別）を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また平成22年3月期第2四半期累計期間において、下記のとおり特別損失を計上することになりましたので併せてお知らせいたします。

記

１．業績予想の修正

（1）平成22年3月期第2四半期累計期間 連結業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

	売　上　高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前 回 発 表 予 想（A）	百万円 7,900	百万円 60	百万円 △30	百万円 △80	円 銭 △2.31
今 回 修 正 予 想（B）	7,350	△300	△340	△540	△15.57
増 減 額（Ｂ－ Ａ）	△550	△360	△310	△460	―
増　減　率	△7.0%	― %	― %	― %	―
（ご参考）前期第2四半期実績（平成21年3月期第2四半期）	9,040	△551	△520	△596	△17.20

（2）平成22年3月期第2四半期累計期間　個別業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

	売　上　高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前 回 発 表 予 想（A）	百万円 5,700	百万円 △60	百万円 △130	百万円 △140	円 銭 △4.03
今 回 修 正 予 想（B）	4,960	△460	△520	△630	△18.16
増 減 額（Ｂ－ Ａ）	△740	△400	△390	△490	―
増　減　率	△13.0%	― %	― %	― %	―
（ご参考）前期第2四半期実績（平成21年3月期第2四半期）	6,560	△560	△482	△510	△14.71

（3）修正の理由

（連結業績）　当第 2 四半期累計期間は、昨年から継続する景況悪化により、消費者の節約志向が更に強まり、店頭での衣料品販売が大幅に落ち込んだことで、国内染色加工市場の縮小は一段と進んでおります。このような状況下、当社グループは、主力の染色加工事業において、需要に見合った生産体制に再構築するため、国内生産拠点の減産体制を継続するとともに、品質面と効率性を向上させるためニット加工事業の集約化を今期 10 月からの実施に向けて進めました。しかしながら、国内市場の縮小は当初予想を遥かに上回る規模・スピードで進行しており、集約効果も下期にあらわれることから、海外子会社は好調に推移したものの、国内の売上減少を補うまでには至らず、連結売上高は、前回予想比 550 百万円減少し、7,350 百万円となる見込みです。一方、利益面では、タイ国で前期に実施した合理化の効果や、EPA 締結に伴う対日輸出を意図したインドネシアでの設備投資の効果により、海外子会社の業績が予想を大きく上回る見込みです。この結果、営業利益・経常利益とも前期より改善ができますが、急激な国内の売上減少にコスト削減が追いつかず、遺憾ながら前回予想を下回る見込みです。また、四半期純利益も各利益段階における損失拡大の影響に加えて、後記のとおり特別損失として国内ニット加工事業の集約化に伴う減損損失を 60 百万円計上する見込みにより修正します。

（個別業績）　個別業績の修正につきましても、連結業績の修正理由と同様に主に国内染色加工事業の業績悪化による要因によるものです。

以上の理由により、平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想及び個別業績予想を上記の通り修正いたします。

なお、通期の業績予想につきましては、現在精査中であり、平成 22 年 3 月期第 2 四半期決算発表（本年 11 月 10 日予定）に公表する予定であります。

２．特別損失の計上

国内におけるニット加工事業の集約化に伴い、当社が保有する固定資産の一部（染色加工機械設備等）について、将来の回収可能性を検討した結果、連結・個別とも 60 百万円の減損損失を計上する見込みとなりました。

（ご注意）上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な状況に基づき判断した見通しであり、今後、様々な変動要因により、実際の業績が上記数値と異なる可能性があります。

以　上